

政策目標5

番号	項目	意見内容	会場	事務局回答(当日)
1	政策目標5	「自然環境」保全と活用の捉え方について、小出地区の住民と市の職員との間で捉え方が異なっているように感じる。何も手を付けず現在のまま保全すればよいということではない。現実には、雑草の処理・管理など、自然との戦いである。そういった現状をしっかりと認識し、ボランティアグループの協力なども含めて具体的な取組を検討してほしい。	小出支所	来年度策定する実施計画では、現状を認識しうえて具体的な取組を位置付けていくことになる。
2	政策目標5 政策目標 -行政経営	自治会加入率が下がったとあるがごみを有料化すると加入率はさらに下がる可能性もある。ごみ有料化もそういった視点で考えたほうがよい。	小出支所	個々の事業のことだけではなく、他の施策も同じ方向を向いているのかという視点にも留意して検討したい。
3	政策目標5	「自然環境」という言葉についての市の考えについて説明してほしい。	小出支所	40ページにもあるとおり、手つかずの自然だけでは認識しておらず、里山等の人間の手の入ったものも自然と認識しており、むしろそれが多くを占めると考えている。人との関わりの中での自然を捉えている。
4	政策目標5	P21の市民意識の2番目の多い「自然や緑、水が豊」は疑問。公園面積は県内ビリ。緑地面積は平成7年には376.7ha。現状は346.62ha。これだけ減少しているにもかかわらず、このような市民の答えは判断できる資料を渡していないのではないのでしょうか。減少していることを、市内全体で自覚しないと10年後も同じように減少するだけです。10年前のことを反省し、課題を整理すべき。抜本的な改革が必要。「みどりを増やす」という意識をまず持つしかないのでしょうか。	香川公民館	(アンケート)
5	政策目標5	地球温暖化にともなう気候変動による影響が世界的に深刻な問題となっていますが、これまで環境政策課の重要施策として進めてきた太陽光発電設備の設置に対する補助金がなくなるという状況のなか、市域の二酸化炭素の排出削減をどう進めるかも大きな課題と思います。茅ヶ崎市独自に市内の事業者の二酸化炭素排出量の削減状況を把握できるような方策を考える必要があると思います。ISOやEA21の認証事業者は二酸化炭素排出量の増減を毎年独自に記録していると思います。事業者にデータの提供をお願いして、市民が身近な問題として二酸化炭素削減に強い関心をもつよう啓発しては如何でしょうか。	香川公民館	(アンケート)
6	政策目標5 政策目標 -行政経営	ゴミの問題について、市民に大きく説明していく必要があるのではないかと思う。また、赤字が想定される施設にどういう補填をしていくのか。	鶴嶺公民館	ごみの有料化に関しては、今の茅ヶ崎市の財政事情の中では、負担していただくやっつけ部分があり、一定のご負担をいただくという考えのもとで、今はごみに限らず、いろいろなところで有料化になっている部分があるかと思う。こういう財政事情の中ではその部分については一定のご理解をお願いしたい。
7	政策目標5	ごみ焼却場は33年度には完全にだめになり、終わってしまう。それに対する市の蓄えは少ないのではないか。どこに使ったのか。	鶴嶺公民館	ごみ処理に関する基金の積み立ては、30年現在で、有価物の売却はアルミ缶などを収集してそれを売ってお金にしているものと、寄付金で3億5400万円ほどの基金の積み立てがある。ごみの基金については、資源物を寒川のリサイクルセンターに利用しているが、そちらの建設などに切り崩しをしている形で増減を繰り返しており、今は3億という数字になっている。使用の目的はごみ処理の施設整備等という使い道の決まっている基金である。
8	政策目標5 政策目標7	総合計画なので河川や丘陵に関しては「河川」という形で具体的なところが載っていないが、こちらのほうで具体的な提案をさせていただきたいと思う。フットパスの中に組み入れて、小出川の下流の海から里までを皆で歩けるロードをつくってはどうか。車のようなロードではなくて、歩けるということ。今、藤沢土木さんも計画として上流のほうまで土手の整備をしているが、整備の仕方では1人、2人が歩けるような土手をつくっていただければ、源流から茅ヶ崎の海までを藤沢の人も茅ヶ崎の人も市外の人も楽しんでいただければいい。お金の使いようとしては、どうせ改修するわけなので、そういう観点でつくっていくと完成すると思う。これは総合計画だが、個別計画にそういうことを言葉と同時に具体的なところを載せていただくとありがたいと思う。まだ、土木や市の担当者には具体的な提案はないが、この会から、そのような提案があったことを伝えてもらいたい。	鶴嶺公民館	非常にユニークな提案かと思っている。他の皆様からいただいた意見もそうだが、すべてを集約して市役所内のすべての課にこういう話があったという情報提供を行うことになっている。また、総合計画審議会でも骨子を議論しているもので、そちらにもいただいた意見をすべて提供して、議論の参考にしていただく予定である。その中で提案することも可能だが、直接担当課とやり取りされているので、その中でお話しいただければと思う。
9	政策目標5 政策目標7	緑の基本計画策定のとき、みどり課のヒアリングがあり、具体的に小出川に親しむ自然の保全を両立するという観点の中で、フットパス構想を市も県と協力して検討されたらどうかという意見があった。その後は県とも市とも直接話をしていないが、これからいろいろな機会があれば、アイデアの段階であるが、ご検討いただければという趣旨である。	鶴嶺公民館	
10	政策目標5 その他	各論については、パブリックコメントが来月2月でそんな時間にないが、この総合計画案は審議会を含めて策定するのか。総合計画なので個別の政策がどうだというイメージはまったく湧かないが、その先の実施計画でどこまで書き込むのか。自然環境については環境基本計画、それから緑の基本計画、そういうところに総合計画の考え方がきちんとリンクして、政策化されていくことになるのだろうと思う。小出川の河川管理自身は神奈川県だと承知しているが、市としても茅ヶ崎市の自然の保全という意味で小出川についてどのように位置付けるのかお聞きしたい。	鶴嶺公民館	どこまで具体的に総合計画の中で踏み込むのかということだと思う。政策目標の5で、「海岸や河川、里山の緑など恵まれた自然環境を保全し次世代へ継承していく」とあり、小出川というポイントの記述にはなっていないが、河川というところがある。「良質な生活環境を確保するために河川や海などの水質の保全」というところも考えていかなければならない。「安全で安心して暮らせる強くなやかなまち」というところで、河川の水質の問題もあろうかと思う。それについては、「河川・公共下水道施設等・計画的な整備・維持管理・災害に強いまちづくりを目指します」ということで、具体的な川の名前の記載までには至っていないが、河川・治水のところ、あるいは自然環境の保全のところはしっかりとケアしていかなければいけない問題という認識を持って今、骨子を作っている。

番号	項目	意見内容	会場	事務局回答(当日)
11	政策目標5 政策目標7	小出川の「フットパス計画」を実現してください。	鶴嶺公民館	(アンケート)
12	政策目標5	環境問題の話。2050年に温室効果ガス80%減を日本の目標として掲げている。しかし、パリ協定などでそれでは遅いという話もしている。 それに対して、地方自治体は取り組む必要があり、エネルギーの使い方を抜本的に変えていかなくてはならない。横浜などもやっているように、再生可能エネルギーの取り合いになってしまう。2050年にまでにカーボンフリーにするには、茅ヶ崎市の方針の検討を始めなくてはならない。耐熱の活用や断熱化が重要になる。そういったことも考えて、新しい建物を建てる際には断熱を入れるなどのガイドラインが必要。市そのものの断熱化を進めていかなくてはならないと考える。交通のエネルギーを減少させるなども考える必要がある。 また、産業のところに、エネルギー関係の産業を市内で活性化させるとか、神奈川県内での活用を考えるなどやっていくべき。	市役所(9月21日)	どのような表現で書けるかはこれから検討したいが、審議会の意見をもらいながら検討したい。
13	政策目標5	エネルギーの供給業者の構造がなくなってくると思う。分散型になると思う。地域ごとにエネルギーを供給するようなことになると思う。エネルギーの社会構造がかわってくると思う。こういったことを進めるのは行政が進めないとうまくはいかないと思うので、そういったことも考えてほしい。	市役所(9月21日)	国レベルの政策になると思う。公共施設はPPSで進めており、東京電力から買っていない。 考え方として入れられるものもあると思うので考えたい。
14	政策目標5	・ハザードマップ ・エネルギーの分散処理 ・ESD(Education for Sustainable Development)	市役所(9月21日)	(アンケート)
15	政策目標5	「豊かな自然と共生し、心地よい生活環境のあるまち」について、緑がどんどん減っており、地域公園もなくなっている。通常、地域の公園を残すことを前提に取り組むべきものであり、少額でも繰越金は積立金として残していかないと、ますます減少すると考える。今の政策目標の中身は実現しないと思う。 骨子にはきれいな内容が書かれているが、実現は困難だと考えている。	体験学習センター	民間との借地契約である土地に整備している公園や青少年広場の取り扱いについては、契約期間後は、場合によっては、返却する場合もあると思うが、引き続き使えるように交渉していく中で、できる限り確保したいと考えている。
16	総合計画全般 政策目標5 政策目標1-行政経営	抽象的でどこが書いても同じではないか。中身が曖昧で、どうにでも解釈できる。難しい言葉が多く、イノベーションや地域の活性化という言葉があっても、それが何を意味しているのか、文章の前後を読んでも何を言っているのかわからない。持続可能なまちづくりとは、茅ヶ崎にとって何を意味するのか、何も書いていない。市民憲章は消えてしまったのか。 典型的な自然が、年々損なわれていて、ますます悪化している状況の反省が何も書かれていない。そういったことに基づいて書いたとあるが、どこに書かれているのか。 自治基本条例の市民主権の仕組みをどう作っていくのかと思う。市民参加という言葉は書かれているが、その質の評価はされていない。総合計画が形式的なものになってしまっている。本日説明があった茅ヶ崎の状況に関する資料も一緒に出して、そういったことを含めて市民が検討できるものにしてほしい。記述全体については、市民がわかるように曖昧さをなくし、定義をしっかりと、政策的に判断できるようにしていただきたい。 工場誘致などの意見もあったが、茅ヶ崎らしい、身の丈にあった内容にすべきである。安心安全、市民の健康、市民参画を大切にすることが重要。	市役所(10月3日)	定義が不明確であることや、他の自治体を持っていても通用するのではという意見が他の会場でもあり、今後、検討していく。身の丈にあった中での重点化について指摘があったが、そうしていきたい。
17	政策目標5 政策目標7 政策目標2	・公園が現状少なく、さらに多くする必要があると思います。茅ヶ崎は住宅地が多いため、公園を増やすことで地域交流がしやすくなり、また、子育てする人にとって住んでいる近くで子どもを遊ばせることで、子育てしやすくなると思います。また、公園の施設内に、防災のための必要なものを設備することも将来的に必要だと思います。 ・茅ヶ崎市内で働いている方の少なさというところで、中小企業にさらに力を入れていくべきであると思います。子育て世代や、高齢者が多くなる中、遠くへ働きにでるより、茅ヶ崎市内で働ける環境があると働きやすくなると思います。そのため、茅ヶ崎市内にある中小企業に対し、市がさらに支援し、働きやすい環境を作る必要があると思います。 ・観光業や農業について、茅ヶ崎は県内の中でも少ないと思います。茅ヶ崎は面積が少なく、なかなか農業についてできるものではないのですが、茅ヶ崎ブランドを作ることができたらいいと思います。観光については、経済的にも収入が多くなり、これから先必要であると思います。今の観光では、湘南など少ないと思うので、さらに増やす必要があると思います。 長くてダラダラとした文章で、うまく伝わってなければ申し訳ありません。	市役所(10月3日)	(アンケート)
18	政策目標5 政策目標1-行政経営	ごみ袋の有料化を実施した場合、転入・転出の際には元の自治体のごみ袋は使用できるのか。また、ごみ収集にコストがかかるのであれば、ごみ袋を有料化する前に、祝日・年末年始の収集をやめるべきだ。また、生ごみの収集は週に2回あるのだから、午前・午後で1回ずつにして、多様な生活パターンに対応できるようにすべきだ。また、財政のひっ迫と、施設の再編は全く別の問題ではないか。財政が苦しいからといって指定管理者制度を導入するのは、市役所職員の責任放棄であり、やめるべきだ。それに伴いコストがかかるとしてもやむを得ない。また、不要な施設を増やしたり、減らしてはいけない施設をむやみに減らしているように思うが、どのように考えているのか。	ハマミーナまなびプラザ	ごみの処理には経費がかかる。できる限り少ない経費で済むようやっつけていきたいと考えており、分別・資源化について市民の皆様にご協力頂いているところだ。収集時間については、限界がある中で、できるだけ多くの利用者にとって良い形で行うことになると思われ、時代と共に生活パターンが変わり、住民の要望が多くなれば、時間帯やペース等も変更を検討していくことになると思われる。転入時のごみ袋については、元の自治体のもは使えなくなる場合が殆どと思われるため、引越しの期日に合わせて使い切ってもらうようにするしかないのではないか。指定管理者制度への意見は、特に社会教育関連施設について意見は多く頂いており、施設の性格によって、望ましい運営形態等を検討していきたい。
19	政策目標5	収集した資源ごみは、売却等を行っているのか。また、その利益はどの程度の額で、処理費用にどの程度あてられているのか。	ハマミーナまなびプラザ	資源物の売却益については、ごみ減量化基金に積み立てている。残高は手元に資料がないが、基金は、ごみ処理施設の更新等に用途が限定された特定目的基金である。
20	政策目標5	ごみの焼却炉の更新にあたって、焼却炉の耐用年数は何年か。また更新のためにどのような積み立てを行っているのか。それが見えていない中で有料化の議論はおかしいのではないのか。	ハマミーナまなびプラザ	ごみ焼却炉については、具体的な耐用年数は数字が手元にないが、施設としては例えば鉄筋コンクリートであれば60年が一般的だろうが、中の設備はそれよりも短いと思われる。ごみの処理量によっても差が出る。有料化は、財政に余裕が無い中で、サービスの受益量に応じた負担の適正化という観点で実施するものである。